

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 8月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204409		
法人名	有限会社ピースフル		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	広島市安佐南区相田5丁目5-9-8 (電話) 082-872-3014		
自己評価作成日	令和2年6月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JlgvossyoCd=3470204409-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 2年 8月 3日 (月)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

平成17年の開所以来となり多くの利用者の方にご利用いただいています。会社理念の「安心・安全・楽しむ」を元にご利用者の皆様と楽しく生活しております。グループホームすまいるは「普通に生活できる空間」を目指しています。
日々の買い物、調理、外出、趣味等お一人お一人の生活歴の中から興味のある事を探し取り組み一人一人が役割を持てるように生活リハビリを中心に、起きたい時に起き、寝たい時に眠り、食べたい時に食べる、遊びたい時に遊ぶ等普通の欲求が実現できるようピースフル全体の目標として取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームすまいるは、大きな団地の中にあり、静かな環境に位置している。事業所としては、御家族に安心して頂けるように、利用者の日常の様子を、あらゆる機会を通して丁寧にお知らせしている。月に1回、利用者の生活状況を家族への写真とコメントを添えた手紙と請求書と一緒に、家族宛に送付している。家族の面会時や事業所の行事参加時に、相談や心配事を聞く、十分な時間を設けている。建物内部は、広さも雰囲気も施設的ではなく、とてもあったかで、利用者の方々と職員のにぎやかな笑い声と笑顔が溢れている。日々の生活状況や行動、言葉等を記録した介護記録や、本人から聞き取った思いや、職員の気付きを載せた申し送りノートを活用される事で、本人の思いや意向をしっかりと把握し、利用者一人ひとりの時間の過ごし方を、大切に支援している。職員は利用者の張り合いになる事や楽しみ事、活躍出来る場面作りを支援している。利用者職員が近い事が、利用者にとって安心に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「普通の生活」を目標とし、買い物、理美容、通院、娯楽、趣味、等地域資源を活用し利用者の方の生活意欲が高まるよう支援をおこなっています。	地域密着型の意義をふまえた事業所理念「安心・安全・楽しむ」を玄関に掲示している。職員は出勤時に目を通して。管理者と職員は、ミーティング等で理念を確認して共有、「利用者主体」「ゆったりした」「プライバシーの確保」を大切にしたケアの実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	何事も事業所内で済ませず、必要に応じて地域資源を活用させていただいています。 (買い物、理美容など)	町内会に加入していて、災害時への協力依頼をしている。散歩時や近くのスーパーへ買い物に行った時には、地域の人と挨拶を交わしている。地元の神社に初詣に行ったり、豆まきに参加している。地域サロンで、保育園児と交流・公民館祭り・盆踊りや敬老会・町民運動会に参加している。また、中学生とバーベキューをしたり、秋祭りには神輿がホームを訪れてくれて、楽しまれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議内や、認知症サポーター養成講座を地域で行い、理解や支援方法の啓発に努めています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年間6回の推進会議において地域の方の意見や疑問について意見交換を行っています。いただいた意見をフィードバックできるよう取り組んでいます。	会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員・自治会役員・民生委員・管理者・相談員・利用者・他事業所職員が参加し、利用者の状況、行事予定と活動報告、消防訓練の実施報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の報告を行い意見交換をしている。会議には、利用者も参加している。会議では、ヒヤリハットや事故報告の対応方法や、防災訓練時の課題について等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症アドバイザーの活動を通し、定期的に市、区役所の担当の方との活動を行っており協力関係を築いています。	市担当者とは、直接出向いたり、電話やファックスで相談や情報交換を行い、市主催の会議・研修(年4回認知症サポーターステップアップ研修、サポーター要請研修等)で協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話での相談の他、地域ケア会議や市主催の研修会で情報交換する等、連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間(17:30以降)は人員減少のため玄関の施錠は行うが、日中は施錠せず、自由に出入りできるように努めています。また、定期的に、委員会、勉強会等を通し職員全体で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいます。	研修会や勉強会(年4回の身体拘束委員会)を通して職員一人一人が身体拘束についての知識や理解を深め、日常的に身体拘束のないケアを実践している。スピーチロックについては、気になる言動があれば管理者がその都度、注意している。、玄関は施錠しないで、外に出たい利用者には、職員が一緒に出かける等、閉塞感を持たない環境作りを努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	インシデント委員会を定期的に開催し虐待や、危機管理等の対策を話し合い職員会議にて報告、意見交換を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	近年後見人制度を利用される方が増え、日々の業務を通し学ぶ機会が増えてきています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は一方的な説明にならないよう注意し、十分に納得していただけるよう意識しており、入居までの期間も電話等質問に柔軟に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々ご面会時等に意見交換をするように、また、来られない方に関しては電話でのご相談をするよう努めていますが、遠方の方やあまり面会に来られない方への対応には課題が残っています。	面会時や運営推進会議出席時、行事時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。毎月、請求書送付時に、利用者担当職員が、利用者の日頃の様子の写真と手書きでコメントしたり、行事への参加を促している他、面会時や電話でも日頃の様子を伝える等で、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回代表者と管理職で会議の場を設け意見交換を行っています。	月1回のミーティングや、普段の業務中や申し送り時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からの意見や提案は、その都度、職員間で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1、2回の懇親会で代表者と職員の意見交換の場を設けています。極力反映していただけるよう取り組んでいただけていると思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者自ら企画の研修会もあるが、人手不足等の問題もあり軌道に乗るまでの課題もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者とは毎月ミーティングを行い、職員とは年3、4回勉強会や、懇親会の場を設け取り組んでいます。また、近隣のグループホーム2カ所推進会議を参加しあい意見交換を行っています。また、年2回程度区内のGH共同での勉強会を行っており参加をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にしっかりと会話の場を持つように努めている。入居に対し不安を持たれる方が多くおられるため、しっかりと声をかけ顔を覚えていただくよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前後でしっかりと話し合いを持てるように努めています。必要に応じ当面電話連絡等様子の報告を行い、また、面会時間の制限をなくし、いつでも会いに来られる体制作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必ず、入居前での話にならないよう努め、状況によっては、他サービスの紹介や、在宅生活継続等の結論が出ることもあった。ベストな方法は何かを前提に話し合うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何かを教える、正すと言った立場ではなく、経験豊富な入居者の方に聞き、教えてもらいながら生活しています。小さな事でも職員が決めるのではなく、一緒に考え決めて行くよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	一方的な要望等ではなく様々な会話をするように心がけています。また、在宅での介護方法、以前の様子等ご家族より教わる事が多くあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	病院、美容院等馴染みの深い場所等に対し、出来るだけ引き続き利用して頂くように心がけています。	家族の面会や親戚の人、知人、友人、近所の人の来訪がある他、電話の取り次ぎでの交流を支援している。家族の協力を得ての外出、外食、自宅への一時帰宅や外泊、墓参り、法事の出席、馴染みの美容院の利用、買物等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の悪い方は席を離す等の配慮をし、日々の調理、買物等間に入り他者との関わりの場を作っている。また、空いた時間も職員が間に入り世間話を囲んでするように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後の現在もこられるご家族もあります。また、退所時に各家族に今後ご相談があればとお話をしたり、お見舞い、葬儀等お伺いさせていただいています。現在ボランティアで来て頂いているご家族もおられます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	開設以来のテーマとして取り組んでいます。主体は誰なのか？、生活歴等参考にしているが、職員主体となってしまう場合も考えられる為、常に満足はせず、取りくんでいきたいと思っています。	職員は利用者寄り添い、共に生活する中で、目線を合わせて話すように心がけ、利用者の言葉や行動、表情等、一人ひとりの思いや希望を受け止め、各々の意向に添えるようにしている。困難な場合は家族に相談したり、職員間で話し合って本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、生活スタイル、職歴、性格、趣味等入居前に、ご本人、ご家族、関係機関より情報を頂き個別計画に反映できるよう心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	訪問看護の訪問や、日に2回のバイタルチェックにて体調管理を行っています。入居後のアセスメントにて1日のリズム、ペースの把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族、関係機関と入居前に情報を頂き、ミーティングにて個別計画の検討をしています。ご家族からの要望は汲みとれているが、認知症のご利用者に対して、まだまだ、検討の余地はあると思っています。	フェイスシート、アセスメントで個々の状況を把握し、6ヶ月毎にカンファレンスやモニタリングをして、主治医や協力機関の意見、ご家族・本人の生活の意向を反映させながら会議を行い、本人の状態に即したケアプランを作成している。変化があればその都度カンファレンスをし、現状に即したプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日記録をつけ、介護計画に反映もさせています。また、記録の得意不得意もあるため勉強会等を検討していきたいと思ひます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に決めつける介護はしないようにと申し送り、会議等で話しています。本人の満足感と、職員の満足感との開きが大きくならないように注意しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生活に関わる買物、美容院等は訪問理美容等を極力利用せず、地域の店を利用しています。外出によって、気分のリフレッシュや、生活感を実感して頂けるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時又は随時本人等に施設指定の往診、従来通りのかかりつけ医、近隣の病院と選んでいただいています。	入居時に本人、家族と相談し、かかりつけ医を決めている。従来のかかりつけ医も選択が出来るようにしているが、ほとんどの利用者が協力病院にて、月2回往診を受けている。週2回の訪問歯科の往診や、必要に応じてご家族様にも受診の付き添いをお願いしながら、専門医への受診も行っており、必要に応じて安心して医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と連携し週1階訪問して頂いています。また、随時の相談にも対応してもらっており。可能な限り利用者の方の不自由がないよう心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、家族、相談員等と連絡を取り話し合いを行っています。必要に応じてや、退院前は必ず病院に訪問し、関係者との話し合いの場を設けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前と必要に応じて話し合いの場を設けています。当事業所で出来る事の説明をさせていただき、ご本人、ご家族の以降に沿えるよう、柔軟に対応していきたいと思っています。	入居時に、重度化対応・終末期ケア対応指針を説明している。本人、家族、主治医と話し合い、看護師等で医療との連携を図り、対応出来るケアについて説明を行っている。対応が難しい状況では、適切な医療機関や施設に繋いでいる。看取りや医療機関、他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。職員は外部研修や内部研修で、看取りケアについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員には積極的に救急救命の講座を受講するように勧めています。職員の入れ替わり時に的確に行えていない部分もあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い災害等に関する意識を持ってもらうように努めています。緊急連絡簿にて緊急時の連絡体制は作っていますが、継続的に勉強会や訓練が必要と思っています。	年2回の消防避難訓練を行っている。内1回は消防署指導の下夜間を想定・昼間を想定して、火災時の通報、避難、消火訓練を利用者も参加して実施している。風水害、地震時の避難訓練や通報訓練も実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いは重要課題と認識し指示的、決めつけ、恥をかかすような言葉使いをしないよう利用者の方に対し伺いを立てるような言葉かけを原則とし指導しています。	利用者個人の尊厳をしっかりと意識して関わりをもち、声掛けにも利用者に伝わりやすい言葉で、本人が自身で選択、決定出来るよう配慮し取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	指示的、決めつけた声掛けにならないよう継続的に職員一同取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合のよいように1日が流れていないか、職員の振り返りを大切にしています。個々の生活歴、ご家族からのお話にしっかりと耳を傾けられるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の会話より好みの色、服の好み等理解したり、衣類を買いに行く際はできるだけ一緒に買いに行くように努めています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を一緒に考え、また、強制はしていないが調理に関心が強い方は、自発もしくはお誘いし参加して頂いています。 当番制ではなく自発性を大切にしています。	3食を手作りで提供し、食べやすさや彩り、ちょっとした手間をかけ美味しく見せる事等、工夫を凝らしている。料理の音やにおい等を利用者も感じて過ごす事が出来、生活の家庭的な雰囲気も感じられ、楽しく食事が出来る雰囲気を大切にしている。行事食では弁当を取ったり・お節やうな重・お好み焼き・寿司を出前して楽しまれている。又、おやつでは、たこ焼き・フルーツポンチ等を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量の記録を取っており、必要に応じて訪問看護、主治医等に相談しております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、口腔ケアをしております。必要に応じて訪問歯科を利用しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別の排泄表を作成し、個人のタイミングにあった誘導を心がけています。結果としてオムツ減らしや、失敗の減少につながるよう取り組んでいます。	排泄チェック表を作成しており、お一人お一人の排泄リズムや行動、しぐさを確認して、随時、誘導や様子を見ながらの個別支援をしている。トイレに座る事を意識し実践する事で、トイレに座ってするのが難しい方でも続ける事で、少しでも自分で座って出来るように支援している。声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	極度の便秘の場合は薬等の使用も検討する事もあります。訪問看護等医療機関に相談し助言や、買物等の生活の中での運動を促し解消につながるよう取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則午後からの入浴として頂いています。出来る限り入浴日や時間など指定せず、ご本人のタイミングで入浴して頂いています。	基本は週2回の入浴だが、本人のタイミングを重視し、なるべくその時間で入浴が行える事、気持ち良く入れるような声掛けを意識している。順番や湯加減を一人ひとりの希望に合わせて、ゆったりと入浴出来るように支援している。入浴したくない人には無理強いないで、時間を変えたり、担当職員の交代や言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間等は設けず、各居室、フロア等で原則自由に過ごしていただいています。日中も居室、フロア等で自由に過ごして頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、薬局の薬剤師等専門職の説明、意見を伺い間違いが起きないように、副作用が出ないように心がけています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	過去に生活歴をしっかりと把握し、書道、生花、家事、パン作り、掃除、外出等個人の意欲につながる事を取り入れて実践してきております。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現状人手不足の状況が続いており以前のような頻度では外出ができておりませんが、少しでも出ていく機会が作れるよう検討しています。 ※現在は感染症予防のため中断しています。	周囲の散歩や外気浴や日光浴、スーパー・ホームセンターに買物に出かけたり、季節の花見(桜・アジサイ)、ドライブや近所に初詣に出かけている。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や法事に参加したり、外出、外食、一時帰宅等、利用者の希望にそって出かけられるように支援している。美術館や梨狩りにも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失防止のため原則金庫で預かるようになっていきます。外出、買物等の場合ご本人に持っていただき、ご自身で支払っていただけるよう心がけています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があれば電話を使っていたり、またご家族からの連絡もすぐにご本人につながりお話をしています。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	子供っぽくならないようワンポイントで季節感のある物を飾るようにはしています。	リビングは自然光が差し込んで明るく、大きな窓からは山々が見えて、季節の移り変わりを感じる事が出来る。四季折々の装飾を玄関に飾る事により、季節感を味わえる工夫をしている。室内には季節の花や観葉植物を飾り、大きなソファや椅子、テレビが配置してあり、利用者はテレビを見たり、おしゃべりをしたりと、思い思いの場所で、ゆったりと過ごせる居心地の良いスペースとなっている。室内の温度や湿度、換気、音にも配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同区間に談話スペースを設け好きなように過ごしていただいています。また、相性の良い方は同じテーブルに座っていただき会話の場を作るように努めています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族には新品でなく使いなれた物を持ちこんでいただくようお願いしています。原則持ち込みする物には制限はつけておらず、場合によってはこちらからお部屋の飾りについて要望させていただくこともあります。	私物を自由に持ち込んで頂いて、自宅の部屋にいるような環境にして頂いている。テーブル・椅子・ソファ・ラジカセ・ハンガーラック・衣装ケース・仏壇・カラオケ機材・電子ピアノ・鏡台・時計・アルバム・ロボット・ぬいぐるみ等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、カレンダーや家族写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特に特別な工夫はしていないが、家庭と同様の生活用品を使用することによって生活感を感じていただけるよう努めています。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム すまいる

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム すまいる

作成日 令和 2年 8月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	従来と違った災害や感染症に対する対応策への不安がある	全職員が一定の対応ができるようになる	定期的な勉強会と夜勤者や、不安が強い職員への個別指導を行う	6ヵ月
2	38	職員の意識に統一性がない場合が感じられる	士の職員でも同じように寄り添うケアができるようになる	接遇委員会、研修を例年以上に増やしていく	6ヵ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。